

巻頭言

歯学部紀要の終刊のお知らせ

鹿児島大学歯学部長 宮 脇 正 一

平素より鹿児島大学歯学部の活動にご理解とご協力を賜り誠に有難うございます。この度、鹿児島大学歯学部紀要第39巻、すなわち昭和56年（1981年）以降今日まで続いておりました紀要の最終巻を皆様にお届けできることを、歯学部長として大変光栄に思います。

さて、平成31年4月に平成の時代が終わり、それと共に、歯学部紀要もその役目を終える時がきました。鹿児島大学歯学部は、昭和52年（1977年）に桜ヶ丘キャンパスに設置され、これまで、南九州沖縄地域で唯一の大学歯学部として、歯学の発展に貢献してきました。そして、この平成の時代に、鹿児島大学におきましても、大学院や大学病院で医科と歯科が統合され、国立大学が法人化されるなど大学改革が行われ、歯学部もそれに伴って大きく変わりつつあります。特に、最近の出来事について紹介しますと、平成31年1月に、初めて海外の協定校から学部学生を受け入れて学生同士の交流も行うなど記念すべき第1回目の短期研修を本学歯学部にて行いました。また、平成31年4

月に、国際交流を担当する准教授を採用する予定であり、さらなる国際交流の推進が期待されます。さらに、令和元年5月に、これまで実現不可能と言われていた学外の教育機関への施設貸与、具体的には、鹿児島歯科学院専門学校歯科技工士科に、本学歯学部の施設を初めて貸与する予定です。これにより、年々不足しつつある歯科技工士の育成にも寄与できることから、引き続き、地域医療にも貢献して参りたいと思います。

このように本学歯学部は、地域に誇れる、かつ世界からも注目される存在としてこれまで活動して参りました。そして、令和元年6月に新たな学会を立ち上げると共に、学術雑誌を発刊する予定であり、これに伴い、歯学部紀要が39巻目でその役目を終えることになりました。

創立以来、本学歯学部に賜りました数々のご指導ならびにご支援に心より感謝申し上げますとともに、これまで本学歯学部紀要をご購読いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。